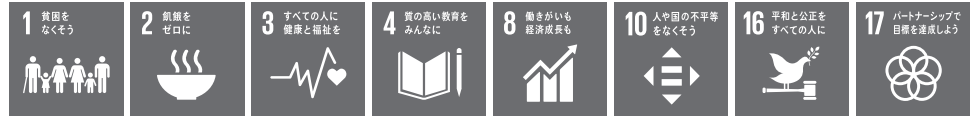


1 子育て



目指す姿

安心して結婚・出産・子育てができ、
すべての子どもたちが夢を持って笑顔で健やかに育つまち

現 状

- ▶ 結婚から妊娠期、乳幼児期、学童期まで、それぞれの過程において切れ目のない支援を行い、子育て世代が安心して育児や教育ができる環境の整備に取り組んでいます。
- ▶ 大野市の婚姻率⁹は全国や福井県全体と比べて低い状況にあり、平均初婚年齢は年々高くなっています。
- ▶ 20歳代後半から30歳代の女性の人口が減少しており、平成21年以降、220人前後で推移していた出生数は平成29年以降、200人を下回っています。
- ▶ 核家族化や地域のつながりの希薄化、雇用環境の変化、子育てにかかる費用の増加など、子どもや子育てを取り巻く環境が厳しくなっています。
- ▶ 発達に気がかりのある子どもや医療的ケア児¹⁰、要保護児童¹¹、ひとり親家庭など、支援が必要な子どもや家庭を専門的、総合的に支援しています。

課 題

- ▶ 将来の結婚や子育てに希望が持てるよう、働きながら子育てがしやすい環境づくりを進める必要があります。
- ▶ 安心して妊娠や出産ができる環境を整えるとともに、母親が子育てに不安や孤立感を持たないように、妊娠期から切れ目のない相談支援や情報提供などを継続して行う必要があります。
- ▶ 子どもを取り巻く社会環境の変化などにより、保護者の多様なニーズに対応できる子育てサービスを提供する必要があります。
- ▶ いつでも気軽に子育ての相談ができる場の充実や仕組みを作る必要があります。
- ▶ 地域ぐるみで子育てを応援する意識の醸成や自主的な取り組みに対する支援が必要です。
- ▶ 発達に気がかりのある子どもや医療的ケア児への支援、要保護児童への対応、ひとり親家庭への自立支援を強化する必要があります。

⁹ 婚 姻 率：人口1,000人に対する婚姻件数の割合のことです。

¹⁰ 医療的ケア児：日常的に人工呼吸器や胃ろうなどを使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアを必要とする子どものことです。

¹¹ 要 保 護 児 童：保護者のない児童または保護者に監護させることが不相当であると認められる児童のことです。

施策

1 結婚から子育てまで切れ目のない支援体制を確立します

- ①将来の結婚や子育てに希望が持てるよう、関係機関が連携して、若い世代の結婚への応援や、働きながら子育てがしやすい環境づくりを進めます。〔10：働く環境1－③に再掲〕
- ②子どもの見守りや預かりなど、地域ぐるみの子育てを支援します。
- ③妊娠中の不安や産後うつなどにより母親が孤立することがないよう、きめ細かな相談支援や情報提供、保健指導などを行います。

2 保護者のニーズに応じた子育てサービスを提供します

- ①子どもの人権を尊重した質の高い保育・幼児教育を提供するとともに、保育士や保育教諭などのさらなる資質と専門性の向上を図ります。
- ②保護者の多様なニーズに対応するため、延長保育や一時預かりなどの特別保育を実施します。
- ③在宅での子育て家庭に対し、関係機関が連携して子育てサービスを提供します。
- ④子育てにかかる経済的な負担を軽減する取り組みや子育て情報の発信など、保護者のニーズに沿ったサービスを充実します。
- ⑤放課後児童クラブや放課後子ども教室など、子どもたちの放課後の居場所を確保します。〔2：学び3－②に再掲〕

3 サポートを必要とする子どもと家庭を支援します

- ①発達に気がかりのある子どもや医療的ケア児、要保護児童、ひとり親家庭などに対し、関係機関が連携して専門的な支援を提供します。

みんな（市民・団体・企業）ができること

- ①楽しく食事をしたり、子どもの話をよく聞いたりして、家族団らんの時間をもちます。
- ②子育て中の親や子どもが地域から孤立することのないよう、温かく見守り、交流します。
- ③不妊治療中や妊娠中、子育て中の方が柔軟に働けるよう応援します。

成果指標

指標	内容	令和元年度 現状	令和7年度 目標	単位
出生率	人口1,000人に対する出生数の割合	4.9	5.2	パーミル ‰
地域の子育て支援拠点となる施設の延べ利用者数	地域子育て支援センター、ちつく・たつく、園開放の延べ利用者数	25,835	22,820	人

関連する個別計画

- ・教育に関する大綱
- ・大野市子ども・子育て支援事業計画
- ・大野市障がい児福祉計画

2 学び



目指す姿

子どもたちの確かな学力や夢に挑戦する力、
ふるさとを愛する心を育むまち

現 状

- ▶ 大野の人や歴史、文化、伝統、産業などを学ぶ教育を進めていることにより、子どもたちのふるさとへの誇りと愛着が育っています。
- ▶ 「全国学力・学習状況調査」の平均正答率は、小中学生ともに、すべての教科で全国平均を上回り、県平均の水準を維持しています。
- ▶ 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」では、小中学生ともに全国平均を上回る結果となっています。
- ▶ 国際理解教育推進員¹²（A L T）の配置やI C T¹³環境の整備により、国際化や情報化社会に対応できる人づくりを進めています。
- ▶ 子どもたちの学校生活を支援する支援員や相談員の配置、問題を抱えた子どもたちを支援する専門職員の配置、いじめ防止対策の強化などにより、安心して通うことができる学校づくりに取り組んでいます。
- ▶ 第三次大野市子ども読書活動推進計画に基づき、図書館の蔵書の充実を図るとともに、読み聞かせなどを行い、子どもたちの年齢に応じた図書の提供と読み聞かせボランティアなどへの研修を行っています。
- ▶ 児童生徒数が減少する中においても、小中学校における教育環境の向上を図るため、大野市小中学校再編計画（案）の策定に向けた検討を進めています。
- ▶ 小中学校の校舎や体育館、設備などの経年劣化が進んでいます。
- ▶ 携帯端末の普及により、人間関係の希薄化や心身の健康への影響、インターネットを悪用した犯罪の発生など、青少年を取り巻く環境が大きく変化しています。
- ▶ 放課後児童クラブや放課後子ども教室では、児童の安全な居場所を確保し、勉強やスポーツ、文化活動、地域住民との交流活動を行っています。

¹² 国際理解教育推進員：小学校外国語の時間に担任教諭とともに授業を行い、市の国際交流支援も行っていきます。

¹³ I C T：Information and Communication Technology（情報通信技術）の略で、情報技術を活用したコミュニケーションのことです。

課題

- ▶ 自ら課題を発見し解決する探求的な学習を推進し、ふるさと大野の未来を創造する力と、自己の生き方について考える力を育てる必要があります。
- ▶ 地域に根差した伝統や文化の継承と地域ぐるみの交流を進め、子どもたちのふるさとを思う心や人を思いやる心を引き続き育てる必要があります。
- ▶ 「全国学力・学習状況調査」では、小中学生ともに県平均レベルの学力を維持していますが、確かな学力の定着とさらなる向上が必要です。
- ▶ 複数の情報から必要なものを取り出して説明したり、根拠を明確にして理由を記述したりする力をつける必要があります。
- ▶ 家庭環境などを要因とした問題を抱える子どもが増加しており、学校内外における子どもたちへの支援が必要です。
- ▶ 保幼小、小中、中高のそれぞれの連携は進んでいますが、さらに充実させる必要があります。
- ▶ 図書館と学校が連携し、子どもたちに質の高い図書の提供を行うとともに、家庭での読書の習慣化を促していく必要があります。
- ▶ 児童生徒の教育環境の向上を図るため、一定規模の学習集団が必要であることについて、保護者をはじめとした市民の理解を深めることが必要です。
- ▶ 小中学校の施設の老朽化に対し、適切に対応する必要があります。
- ▶ 家庭や地域、学校の連携による地域に根差した開かれた学校づくりを、継続して実施する必要があります。
- ▶ インターネットを悪用した犯罪をはじめ、さまざまな犯罪やトラブルに巻き込まれないよう、青少年健全育成の環境を整備する必要があります。
- ▶ 「地域の子どもは地域で育てる」との意識の下、放課後子ども教室に安全管理員を適切に配置し、子どもたちの安全で安心な遊び場や居場所を確保していく必要があります。

施策

1 優しく賢くたくましい大野人を育てます

- ①ふるさと大野の未来を創造する力と、自己の生き方について考える力を育てるために、さまざまな学習や体験を充実します。
- ②確かな学力を身につけるため、国や県、市の学力調査を活用した授業改善を行います。
- ③情報活用能力や論理的思考力を育成するために、タブレット端末などのICT機器を効果的に活用します。
- ④安心して通える魅力ある学校をつくるために、いじめや不登校への対策を充実するとともに、障がいや多様性を個性として受け入れる教育を推進します。
- ⑤発達に気がある子どもや障がいのある子ども、要保護児童、ひとり親家庭などに対し、関係機関が連携して専門的な支援を提供します。
- ⑥家庭や学校、地域が一体となって、青少年の安全確保と健全育成を行うための環境づくりを促進します。
- ⑦親が子育てについて考え、学ぶことのできる機会をつくるとともに、親子が一緒に取り組み、親子の絆を深めることができる活動を実施します。
- ⑧子どもたちに読書の楽しさを伝えるとともに読書の習慣化を促すため、図書館と学校との連携を進め、学校や認定こども園などへの図書館司書や読み聞かせボランティアの派遣を行います。

2 児童生徒の教育環境を整えます

- ①未就学時から高等学校までをつなぐ教育の仕組みづくりに取り組みます。
- ②一定規模の学習集団による教育を実現するため、小中学校の再編を進めます。

3 地域と学校が連携して子どもの育ちを支えます

- ①家庭や地域、学校、公民館の連携により、子どもたちの豊かな成長を支える「コミュニティ・スクール¹⁴」を推進します。
- ②放課後児童クラブや放課後子ども教室など、子どもたちの放課後の居場所を確保します。(再掲) [1：子育て2-⑤]
- ③地域による登下校の見守り活動を行うとともに、地域ならではの行事への参加や自然との触れ合いなど、子どもたちの人や自然と関わるさまざまな機会をつくり出します。[17：ひと・地域2-②に再掲]
- ④地域の伝統行事や伝統芸能、伝統料理などを子どもたちに伝える活動を推進します。[19：文化芸術1-④に再掲]

¹⁴ コミュニティ・スクール：学校と保護者、地域住民がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え、地域とともにある学校づくりを進める仕組みのことです。

みんな（市民・団体・企業）ができること

- ①大人が率先して笑顔であいさつや声掛けを行い、思いやりのある行動をします。
- ②読書やスポーツ、文化芸術などさまざまな活動を子どもと一緒にいき、共に学び続けま
す。
- ③子どもが犯罪や事故に巻き込まれないよう、登下校の見守りをします。
- ④学校の行事や校外学習、職場体験、PTA活動などに協力します。
- ⑤子どもや子育て家庭への声掛けなどを行い、地域の子どもを地域全体で見守り、育てま
す。

成果指標

指 標	内 容	令和元年度 現 状	令和7年度 目 標	単 位
「学校が楽しい」と回答する児童生徒の割合	児童生徒アンケートで「学校が楽しい」と回答する児童生徒の割合	小94.0 中89.0	小95.5 中91.5	%
子どもの生涯学習事業参加回数	18歳以下の子ども1人当たりの年間生涯学習事業参加回数（生涯学習センター、公民館、図書館主催）	1.41	1.45	回

関連する個別計画

- ・ 教育に関する大綱
- ・ 大野市小中学校再編計画
- ・ 大野市子ども・子育て支援事業計画
- ・ 結の故郷ふるさと教育推進計画
- ・ 大野市子ども読書活動推進計画
- ・ 大野市障がい児福祉計画

— 第3編 —

前期基本計画